

樓とちりちめり飛禽走獸因本姿をな
朱鳥舒翼時衡騰蛇蟠蚪キウキウとことりあり
遠懷山神海靈を状を控載て宛々丹青千
變万化して事各状を差へて順色描彩
曲よそ情をゆくり親工法天乘雲戯れ開
闢燧石の始を記より下より悠々くくも玄魚
睢くくも白鳥沈く浮く翱翔とかたりく
娛其所清涼濃くとして流水浩く淑貌耀
皎日惠心湛て且蕭閑之雨の換造りなを
まをへまを建石も裁おの玉換忍もいとぬ

堀江の海橋を水なと筆に記さは心の至少
りらん餘師も書覃オホフはうなん庭乃砂を
水精の粒よきうめき池水清う沈そ中よ
百千万種の蓮花藍をわて生おくり常
樂の風涼う吹ハ浪苔空に我の文をまじ
池の一匯は極本あり每枝は皆羅網をけり縁
木樹の色よほやりにして水底清く移り
玉燒玉の蔓並て金銀の色よ見へそのを
入事多きもけ世の人をまへに松の風う客
添て態となしぬ妙く時へくもおの書たれ